

令和3年度 第2回伊東市行政改革懇談会（要点記録）

- 1 日 時 令和3年11月17日（水） 午後1時30分から午後2時40分
- 2 場 所 市役所 7階 特別会議室
- 3 出席者 委 員：上村昌延会長、小川健一郎委員、佐藤健治委員、鈴木洋子委員、
関川永子委員、森知子委員、山田豊和委員
市 : 企画部長、理事、企画課長
事務局：企画課課長補佐、企画課主査

4 内 容

(1) 開会

（企画課長）定刻になりましたので、ただ今から、令和2年度第3回伊東市行政改革懇談会を開会いたします。本日はご多忙の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。本日の会議を招集申し上げたところ、やむを得ず欠席する旨の届出が、五十嵐委員、勝又委員からございましたので、ご報告いたします。

(2) 挨拶

（企画部長）本日は、お忙しい中、第2回伊東市行政改革懇談会にご出席いただき、ありがとうございます。昨今の状況ですが、コロナ感染者も伊東市では確認されない日が続いておりまして、これも皆様のご協力の賜物でございます。今後につきましては、伊東市の経済状況が回復できるよう市職員含め、取り組んでまいりますので、ご協力の程、よろしく申し上げます。本日は、前回の懇談会にて確定していなかった指標について報告をさせていただきます。本日も忌憚のないご意見をいただきますよう、何卒よろしくお願ひいたします。

(3) 議題

ア 伊東市の行政改革に対する意見交換について

（会長）それでは、早速議題に入ります。議題1「伊東市公共経営改革大綱実施概要（令和2年度実績）」について、事務局の説明を求めます。

（事務局）説明に入ります前に、配付資料の確認をします。

事前に郵送にて配付してある資料として、次第、令和2年度実績が記載してあります実施概要、財政用語集、市民満足度調査になります。

それでは、議題（1）「伊東市公共経営改革大綱実施概要（令和2年度実績）」について、説明します。

実施概要の表紙をめくり、目次部分をご覧ください。

まず、今一度おさらいとしまして、この大綱が目指す姿は、昨年度で計画期間を終了した第4次伊東市総合計画の「構想の推進」に掲げられた、項目でいうところの1番濃い網掛け部分、1「市民の信頼に応える行政運営」、2「健全な財政運営」、3「市民参画によるまちづくり」の3つの施策の実現を基本方針としており、これら3つの施策を

推進するために施策ごと方策を立て、方策に基づいて実施する事項を設定しております。担当課は、実施事項に則り各年度実施計画を立て事業を実施し、実績をこの実施概要にまとめていきます。委員の皆様には、この懇談会の中で、令和2年度実績について報告をさせていただきます。

本日の懇談会では、令和2年度実績として前回の懇談会にて数値が確定していなかった、項目2「健全な財政運営」について、9月定例会にて決算認定を受けたので、配付してあります実施概要と財政用語集にてご報告します。

なお、今回初めて配付した財政用語集ですが、1、2ページは予算について、3、4ページでは令和元年度の歳入の内訳、市税の内訳等を記載してあります。

本日は、財政用語集において、実施概要の「健全な財政運営」で設定している各指標について、令和元年度の決算資料を反映し、各指標の説明や県内の市との比較を記載しておりますので、当該部分について、実施概要と併せてご確認をお願いします。

財政用語集については、令和2年度の県内の市の各種平均値が現時点では公表されていないことから、令和元年度数値にて作成しています。

それでは、実施概要の項目2「健全な財政運営」の指標について、ご説明します。

まず、実施概要の19ページ、財政用語集は最終ページの8ページの下段になります。

項目2「健全な財政運営」の成果指標として2つ、全ての会計の地方債残高（臨時財政対策債を除く）、市の財政の健全な運営（満足度）としております。

1つ目の指標として、全ての会計の地方債残高（臨時財政対策債を除く）になります。

地方債残高とは、いわゆる市債は市の借金となります。借金は少ないに越したことはありませんが、例えば、道路や公園などの施設整備に必要なお金を1年間の予算で賄ってしまった場合、その年は他の事業を行うことができなくなってしまいます。また、道路や公園等は、今後多くの市民の方が利用する物であるため、将来の市民の方にも平等に費用を負担いただくことも市債を発行する理由の1つとなります。

数値目標は、平成28年度は371億円以下、平成29年度は360億円以下、平成30年度は348億円以下、令和元年度は337億円以下に設定しています。

実績として、平成28年度は364億円、平成29年度は350億円、平成30年度は331億円、令和元年度は324億円となり、着実に地方債残高を減少させております。令和2年度の目標値は320億円以下とし、実績は316億円となり、全ての年度で目標を達成することができました。今後も借入の抑制に努めていきます。

2つ目の指標として、市の財政の健全な運営（満足度）になります。

こちらは、前回の懇談会にてご報告しましたので、省略します。

この項目2「健全な財政運営」の実現をめざし、方策を2つ設定しています。

1つ目は、実施概要の20ページ以降の持続可能な財政基盤の強化、2つ目は28ページ以降の公共施設等総合管理計画の推進です。2つ目の公共施設等総合管理計画の推進につきましては、前回の懇談会にてご報告していますので省略します。

それでは、1つ目の、持続可能な財政基盤の強化について、ご報告します。

実施概要の20ページ、財政用語集の7ページをお願いします。

「持続可能な財政基盤の強化」として指標を2つ設定しています。

1つめ目の指標として、経常収支比率です。

経常収支比率とは、分母を市税など常に見込める収入（経常一般財源）とし、分子に人件費など常に支払う必要がある支出（経常経費充当一般財源）とし比べたものです。経常収支比率の割合が低ければ、それだけ新しい事業（仕事）に予算（お金）を振り分けることができます。

数値目標は、平成28年度から令和2年度まで、各年度、85.0%以下と設定しています。

実績として、平成28年度は83.2%、平成29年度は82.9%、平成30年度は86.8%、令和元年度は88.8%となり、県内の市の平均値と比較した際に、平成29年度までは、県内の市と比べ、低い水準でいましたが、平成30年度以降は県内の市と同等の水準になっております。

令和2年度実績は、90.4%となり目標を達成できませんでした。

評価として、下水道事業が法適用になったことによる補助費等や会計年度任用職員制度の導入による人件費が増加したことなどから、目標を達成できませんでした。今後は、さらに経常経費を抑制しつつ、市税の増収に努めていきます。

2つ目の指標として、市税の収納率です。この指標については後ほど、23ページにて説明しますので、ここでは省略します。

続きまして持続可能な財政基盤の強化に基づき実施した事業の実績について、ご報告します。

実施概要の21ページ、財政用語集の3ページをお願いします。

自立した財政運営を図るため、自主財源の確保とし、指標は自主財源比率です。

自主財源比率とは、市税や使用料など自前の歳入である、すなわち自主財源によって、国等からのお金を含めた歳入総額のどれぐらいの割合を賄うことができるか又はできているのかを求めた指標になります。

数値目標は、平成28年度から令和2年度まで、各年度、65.0%以上を設定しています。

実績として、平成28年度は50.5%、平成29年度は52.8%、平成30年度は54.8%、令和元年度は53.0%となり、県内の市の平均値と比較した際に、県内の市も年々自主財源比率が減少している状況となります。

令和2年度実績は、39.7%となり目標を達成することができませんでした。評価として、国の新型コロナウイルス感染症対策による国庫支出金が大幅に増加したことで、分母が増加し、目標を達成できませんでした。今後も市債の抑制を図りつつ、自主財源の大きな割合を占める市税の増収を図っていきます。

次の22ページにつきましては、前回の懇談会にてご報告していますので省略します。

次に、実施概要の23ページ、財政用語集の4ページをお願いします。

指標として市税の収納率です。

収納率の向上を図ることにより、自主財源の確保をするとともに財政基盤の安定、強化を図るため、財政調査・滞納処分の強化・執行停止・早期滞納者対策・口座振替の推進を行いました。

数値目標は、平成28年度は83.3%以上、平成29年度は84.6%以上、平成30年度は85.2%以上、令和元年度は85.6%以上に設定しています。

実績として、平成28年度は83.7%、平成29年度は86.5%、平成30年度は88.9%、令和元年度は92.1%となります。

令和2年度は、目標値86.0%に対し、実績値は92.4%となり、全ての年度で目標を達成することができました。

評価として、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、差押え・執行停止等の地道な努力の積み重ねにより目標を達成しました。

しかし、県内の市の平均値と比較すると、まだまだ、開きがありますので、現年対策を強化する中で、今後も財産調査を徹底し、速やかに滞納処分を実施することにより、効率的な滞納整理に努めていきます。

次に、実施概要の24ページ、財政用語集の8ページをお願いします。

世代間で隔たりのない安定した財政運営を行うため、指標は実質公債費比率となります。

実質公債費比率とは、借入金（地方債）の返済額や公営企業債の償還にかかる経費などの標準財政規模を基本とした額に対する比率です。分子である公債費や公債費に準じた経費は、義務的に支出しなければならない経費であるため、この比率が高まると財政の弾力性が低下し、他の経費を節減しないと、収支が悪化し、赤字団体になる可能性が高まってしまうため、標準財政規模や償還額とのバランスを考慮し、一定額以上にならないようにすることが重要となります。この数値が大きいほど、返済の資金繰りが厳しいことを表します。

数値目標は、平成28年度から令和2年度まで、各年度、12.0%以下を設定しています。

実績として、平成28年度は7.0%、平成29年度は6.4%、平成30年度は6.1%、令和元年度は6.1%となり、県内の市の平均値と比較した際に、概ね同水準で推移しています。

令和2年度実績は、5.9%となり、全ての年度で目標を達成することができました。評価として、特定財源の額や準元利償還金が減ったものの、分母である普通交付税が増加したことにより、目標を達成できました。学校給食センター建設事業及び健康福祉センター建設事業を実施したことにより、今後、元利償還金が増加することが予想されているので、地方債発行額の抑制に努めていきます。

次に、実施概要の25ページ、財政用語集の7ページをお願いします。

指標は、財政調整基金残高です。

財政調整基金残高とは、資金が必要な事態（災害時等）や収入の落ち込み等の事態に対応できるよう、市も貯金をしています。その貯金の残高を財政調整基金残高と言います。

数値目標は、平成28年度から令和2年度まで、各年度、30億円以上を設定しています。

実績として、平成28年度は31億8,746万6,000円、平成29年度は31億

8,885万6,000円、平成30年度は31億8,981万8,000円、令和元年度は31億9,064万2,000円となりました。

令和2年度実績は、25億7,100万7,000円となり目標を達成することができませんでした。

評価として、新型コロナウイルス感染症対策などにより、8億円を切り崩したため、目標を達成することができませんでした。今後も、積立額と取崩額のバランスを考慮した基金管理を実施していきます。

以上、令和2年度実績報告のうち、前回懇談会にて未確定であった指標の報告となります。

引き続き、今年度実施した市民満足度について、調査結果を報告します。

実施概要では、1ページの「市の取組に対する満足度」、3ページの「市民満足度調査回答率」、19ページの「市の財政の健全な運営（満足度）」、36ページの「市民活動などの地域活動の推進（満足度）」及び「市民の声をうかがう機会の充実（満足度）」が市民満足度調査を引用した指標となっております。

それでは、令和3年度の市民満足度調査の1ページをお願いします。

調査概要を記載してあります市民満足度調査とは、第五次伊東市総合計画に基づき実施している取組等について、市民の皆様の意見や評価を把握し、今後の市政運営やまちづくりに活かす事を目的に実施しています。

本年度は、8月11日から8月31日まで実施し、18歳以上の市民2,000人を対象に、伊東市の住み心地、まちづくりについての満足度・重要度など、(5)に記載する内容について調査しています。

回答率については、34.1%となりました。

次のページの回答者の属性をご覧いただいてもわかるとおり、やはり若年層の回答率が低いことが課題です。

伊東市のまちづくりに対する「満足度」「重要度」について説明します。

6ページをお願いします。市が行っている取組について、どのくらい満足しているかについての調査結果です。

満足度の1位は、昨年度同様の安全でおいしい水の安定供給、2位も昨年度同様にごみ収集やリサイクルなどのごみ対策の充実となりました。また、最も満足度が低い項目は、昨年度同様、企業誘致などを通じた雇用の創出・確保となりました。

9ページをお願いします。市が行っている取組について、どのくらい重要だと思うかについての調査結果です。

重要度の1位は災害対策の充実、2位は地域医療の充実となりました。

12ページには、重要度に対する満足度の調査結果を記載してあります。最も重要度と満足度の乖離がない項目は、史跡・郷土芸能の保存となり、もっとも乖離していた項目は、企業誘致などを通じた雇用の創出・確保となりました。

今後、企業誘致するための施策として、コロナ禍でテレワークが普及してきましたので、市内にサテライトオフィスなどの整備を進め、雇用の創出・確保に努めてきます。

その他の調査結果として、今後の市政についてや公共施設の整備についてなど記載し

ておりますので、よろしければ各自ご確認をお願いします。

今後も満足度調査を実施することで、市民ニーズを把握し、施策に反映していけるよう努めていきます。

以上、雑駁ではございますが、令和2年度実績等について報告しました。よろしくお願い申し上げます。

(会長) それでは、ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

(D委員) 市民満足度調査の若年層の回答率が低いとのことですが、各年代同じ部数を発送しているのでしょうか。

(企画課長) 人口に比例して送付していますので、高齢者に多く発送していますが、それにしても、若年者の回答率が低いです。

(D委員) 年代ごとの回答回収率の数値があると、分かり易いと思います。若い方の意見が見えないですね。

(企画課長) 市内の高校2年生を対象に高校生アンケートをWEB上で実施しています。今後も高校生アンケートを続けていく予定でおりまして、現在、取りまとめているので、集計ができましたらHPで公開します。

(F委員) 人口が約7万人に対して2,000部は少ないと感じます。結果的には682部しか回答がありません。全体の意見を捉えているか疑問です。QRコードを広報いとうや伊豆新聞等に掲載して、こちらから回答者を抽出するのではなく、回答したい人が回答できる仕組みにすれば良いのではないのでしょうか。こちらの方が、今より費用も押さえられるのではないのでしょうか。

(企画課長) 統計上、600部程度の回答があれば全体の意見を捉えているとして問題ないようです。郵便代を掛けて紙で調査票を送付することは、費用面も含めてですが、集計もかなり大変なので、WEB方式で集計できるようにすることも常に検討はしています。しかし、一方でWEBにアクセスして回答する層というのが偏ってくるのではないかと考え、今年度はWEB方式に踏み切ることができませんでした。今後も検討してまいります。

(D委員) 国勢調査のように紙でも送るけど、送付した紙にQRコードを記載する方法はどうでしょうか。前回の国勢調査をWEBで回答したのですが、とても簡単でしたので、回収率を上げるためにも紙でもWEBでも回答できるようにしたら良いと思います。

(企画課長) 国勢調査のように個人ごとに番号を振って、その方から回答があったということをチェックできるものであれば良いと思います。紙でもWEBでも重複して回答してしまうということを排除できれば来年度以降検討したいです。

(E委員) 基金残高がかなり減っています。コロナ禍で仕方がないことですが、どのようなことに充当したのでしょうか。

(企画課長) コロナの影響で経済対策を実施しました。具体的には、特別定額給付金として一人10万円支給しました。この事業により国から約68億円交付されました。通常の伊東市の決算は約200数十億円程度なので、大分影響があったと思います。他にも新型コロナウイルス感染症対策の臨時交付金として国から約11億円交付され、当交付金により協力金や給付事業、応援金、プレミアム付商品券、県民宿泊キャンペーン等を実施しました。ご質問にありました市のお金を使った事業として、市の名産品をネットでPRして売り上げを図るキャンペーンや小・中学校の1学期分の給食費の無料化、保育園における4月分から7月分の給食費の無償化、コロナ対策を行っている飲食店に対する奨励金の支給事業を実施しました。その結果、財政調整基金を取り崩すことになりました。

(F委員) 昨年の市の経済対策の1つである利息の補填についてです。県内でも伊東と熱海しか長期間の利子補給を行っていませんでした。お金の配り方として、全員に行き渡るといえることはありませんが、このような災害時に利息の一部を市が補填してくれたということは、評価したいと思います。仕事柄そのように感じました。

逆に、納税率の話になりますが、近年、差し押さえの件数がものすごく増加しました。それだけ支払っていない方がいるということだと思いますが、例えば、融資取引があるお客さんにとっては命取りになります。差し押さえられたお客さんに電話で確認してみますと、意外に市の担当と納税の方法について協議をしていないことが多くて、差し押さえは、最終手段として権力を使って預金を抑えることができるのですが、そこに至るまでの交渉内容に、問題がないかどうか確認していただきたいです。

差し押さえの手続きを受けるのは、民間の金融機関です。これに係る事務負担はかなりのものです。同時差し押さえなんてことは滅多にありませんが、差し押さえの事務は一秒を争うものですので、預金口座をストップさせる前に引き下ろしてしまうケースもあります。納税率を上げるために差し押さえはとても有効な手段ではあると思いますが、差し押さえに至るまでの過程をもう少し工夫していただきたいと思います。

(D委員) お金は血液ですので、ある程度血液量が必要な事業所などもありますから、息の根を止めてしまわないようにしないとイケません。本当にこのコロナの影響を受けて困っている方と困っていない方の差が激しいと思います。困ってて払えないのか、悪質的に支払えないのか判断が難しいとは思いますが、見極めをしていただいて、切迫しない方法をおこなってほしいです。

(企画部長) この収納率の向上に係る方法については、市議会からもご意見をいただいております。払いたくても払えない方がいるということは市も認識しておりますので、収納課に納税相談をしていただければ、納税猶予という措置もございます。この新型コロナウイルスの関係でもそうです。しかし、払えないということを相談していただくということが前提になります。当市の場合は、今まで県下で収納率が最下位でして、県からも指導が入りました。なんとかしないといけないと考え、納税していただいている市民の方との公平感もありますので、積極的に取り組んだ結果、令和2年度の収納率が92.4%まで向上したということは事実です。いきなり払えないからすぐに差し押さえということではございません。督促状も送られていると思います。中には支払いを忘れていた方もいらっしゃると思いますので、そのような方には、今後、口座振替等の方法についてご案内もしております。

(F委員) 滞納者と市の担当者との意思疎通として、差し押さえについて全く聞いてないという方もいました。

(企画部長) その部分の説明については、以前からの課題であるとは思いますが、市民の皆さんに公平に税の負担をしていただけるように取り組んでいくとともに、ご意見として承りたいです。

(D委員) いわゆる一般家庭の私の友人が、市役所に来ることがとても重荷だと言っていました。要するに、堅苦しくいつもの生活に馴染みがないということだと思います。例えば、このように感じてしまっている人が市税を滞納してしまって、督促状がきて、相談したら分割できるよというところまでの内容を確認しないで蓋をしてしまうケースもあると思います。例えば、足を運んで別の形で案内できるようなことや面会や電話をすることでコンタクトを取りながら、支払える計画で分割できるということを伝えて、市役所に来るハードルを下げるような取組も必要であると思います。

(企画部長) 手続きに慣れない方も多くいると思います。本市としましても市民の方に開かれた市役所を目指しておりまして、今年度、試験的にコンシェルジュ事業を始めました。市役所入口でお困りの市民がいましたら、市職員がお声がけをしておりますので、今後市民の皆様様の立場に立った政策を行っていききたいと思います。

(A委員) 個人的な意見として、固定資産税の納付書を3期と4期を間違えて納付してしまいました。金額が同額で、支払っているのに督促状が送られてきました。私が間違えてしまったのですが、市役所にも融通さがほしいと思いました。

(C委員) 満足度調査の6ページをお願いします。出産・子育ての満足度の調査結果です。令和3年度と令和2年度の数値を比べると、約7%下がっています。この要因は何が考えられますか。

(企画部長) 具体的な理由が掴みにくいのは確かですが、市としてこの満足度を100%に近づけていくことを目指しています。考えられる例としまして、市民病院の産婦人科が出産に対応できないというご意見をいただいておりますので、改善していくことが満足度を上げる施策の1つだと考えております。また、子育て施策の充実として様々な施策を実施していますが、市民の皆様に対して周知が足りないのではないかとご意見もいただいております。県内の市町で比べても子育て支援策が充実していないというわけではないです。市の子育てナビを見ていただくと、様々な事業を行っていることが分かるのですが、PRが足りないことや長泉町など子育て施策がとても充実している自治体もございまして、そのような自治体と比較してしまうと、充実していないのではないかとご意見もいただいております。具体的な理由を分析することは難しいですが、今後の施策に反映するための基準として活用しています。

(A委員) 出産・子育てについては、すでに終わっている世代はあまり興味がない分野であると思います。B委員などの現役の子育て世代にとっては、とても充実してほしいという分野であると思います。

(D委員) 出産・子育ての施策については、様々行っていて、他の市町と比べても充実していないということはないとのことでしたが、例えば、利用率が低いことというのは、ニーズにマッチしていないということではないでしょうか。

(企画部長) 要因の1つではあるかもしれませんが。市としても、子育て世代の方の意見を聞くために、タウンミーティングを始め、保育園・幼稚園等の保護者の意見も伺いながら、毎年どのようにすれば良いか検討をしていますが、年々、出生数が少なくなっているのが現実です。令和3年もかなり少なくなる見込みです。なんとか出生数を上げていかないと、市として活気がなく衰退していきますので、知恵がありましたらお願いします。

(E委員) 私の周りを見ても、独身の方がとても多いです。その部分にも、子どもが増えない原因があるのかもしれませんが。

(企画部長) 出産祝い金の充実や小・中学校入学時になんらかの援助をしていくということも検討しています。子どもを産んで育てていく過程の中で、どのような支援が必要であるのか検討していく必要があると感じています。

(D委員) 私の経験から申し上げます。共働きで、産休が取れない就業形態の場合、産休の間、かなり収入が減ってしまいます。このようなときに、借家に住んでいる方は市で1

年間家賃を補助しますよ。持ち家の方は固定資産税を1年間免除しますよということであれば、この市に住んでみようかなと思うのではないのでしょうか。大きな出費の援助があれば、伊東は環境が良いので、住んでみようと思うのではないのでしょうか。

(企画部長) ありがとうございます。とても良い意見だと思います。

(A委員) アンケートを行う際に「どうしたら子どもが増えると思いますか」というような質問を設けてはどうでしょうか。

(D委員) アンケートのときじゃなくても、思いついたらメッセージくださいというようにしたらどうでしょうか。例えば広報いとうなどにQRコードを付けるとか。

(C委員) 今、伊東市は3人子どもがいる世帯に特別な支援はあるのでしょうか。1つの例として、私の娘は3人の息子がいます。高校生が2人で小学生が1人です。1日の炊く米の量が一升だそうです。それほど、お金が掛かります。年々、子どもが少なくなってきましたので、3人目が生まれたらこういう支援がありますという制度を設けて、家庭の負担を減らすような政策をしていただけたら嬉しいなと思います。

(企画部長) 意見を聞くことにつきましては、市長への手紙等を行っています。今後、例えば、子育て支援などにテーマを絞って、意見募集をしてみても良いのかなと思いました。

3人目以降の支援につきましては、その家庭にだけ支援をするというのが難しいですが、お金がとても掛かるということは認識しておりますので、どういう支援ができるのかご意見を伺いながら行っていく必要があると思います。

移住した方に対して、要件はありますが家賃補助を行っています。育児休暇によって一方が働けなくなり収入の保証がない場合に、少しでも出産しやすい街にしていくということは喫緊の課題であると考えています。

(A委員) 私の知り合いが、6年ごとに3人、出産しました。川奈小に通学していましたが、川奈小は生徒数が少ないので、18年間PTAをやったそうです。子どもが少ないからやらざるを得ないようでしたが、このようなことも、親への負担が大きいようです。

(D委員) 地方の方が地域の密着度が高いと思います。このことが移住者の懸念材料になっていることは事実だと思います。この部分をどうするのか、PTAなどは本当に必要なのか。長年、みんなが嫌だと言いながらその組織が残るということは、変わる必要があるのではないかと思います。

(A委員) 財政積立調整基金についてですが、令和3年度はどのくらい取り崩す予定ですか。様々な政策をやっていますので、基金を取り崩さなければやっていけないのではないのかと感じています。

(企画部長) 事業を行うに当たり、国等からの交付金等があります。その交付金等に当てはまらず、市の負担で行う事業もあります。その部分で取捨選択を行っていく必要があります。交付金等以外にも起債等もありますので、活用して、それでも不足してしまった部分については取り崩す必要があるのではないかと思います。

様々な指標がありますが、基金の積み立てのラインとして一般会計の15%ぐらいを目標にしています。伊東市ですと、目標にありますとおり不測の事態が起きた場合に、30億円以上の基金が必要となりますので、確保しながら事業を行っていきたいと考えています。

(A委員) アフターファイブクーポンや観光事業等を含めて、かなり財政が厳しいのではないかと思います。それでも行う必要がある施策もあります。みんな市に対して言いたいことは言いますので、受ける側は、とても大変だろうなと思います。

(D委員) 私は、クーポン事業に懸念があります。この事業は、普段行けないお店にクーポンによって安くなるから行こうかなと思うのではないかと思います。このクーポン事業が終わったときに、根本である給与が増えていなければ、反動でものすごい冷え込むのではないかと思います。このような事業は、カンフル剤を打っているようなもので、根本の給与等の収入が増えないと、終わったときに同じように外食しようとか遊びに行こうとか思えません。所得が上がってこないと逆に怖いと思います。このような面については、市はどのように考えていますか。

(A委員) 私はアフターファイブクーポンの実行委員長です。仰ったようにカンフル剤だと思います。しかし、もっと強いカンフル剤が必要だと思っていて、もちろん、大きな企業が清々と外に出てくれれば、クーポンを出すより、飲食業界には効果があります。市役所の職員が忘新年会シーズンに表に出てくれれば、正直、クーポンなんて必要ないです。でもカンフル剤を打たなければいけないほど、今、街が寂れてしまっていて、なんとかするために、繋ぎの1つとしてクーポン事業は必要であると思います。

(D委員) 市は、感染症対策をしてくださいという立場なので、まだこの忘年会シーズンに盛大にやってくださいとは言えないですね。これまでの何十人で行う忘年会でないと大きなお金は落ちませんので、クーポン事業と本当の意味での経済活性化がずれているのではないかと思います。なので、どんどん強いカンフル剤を打っていかないといけないという怖さがあります。

(A委員) 今まで、外を出歩いていた方が、自宅でお酒を飲むことに慣れてしまいました。出歩くのが億劫になっています。夜の街を見ると若い方はまったくいません。カンフル剤でも活用しないかぎり、今の伊東の観光、飲食を含めた経済はかなり疲弊していると思います。

(E委員) このクーポンによって、市で3,000円の補助が付きます。お店の予約を娘が受付けているのですが、どんどんお店の予約が入ってきていると言っています。今、このクーポンのような事業がないと人が動かなくなっています。人が動けば、お金が落ちていくので、やはりカンフル剤は必要だと思います。

(D委員) 最近、感染者が確認されていません。万が一、感染者が確認されたときは、活動を抑制してもらうけど、これだけ確認されていないのだから、一度気持ちを経済を動かす方向に向けましょうというメリハリをつける感染対策をしますということを掲げ、そのかわり感染者が確認されたときは、活動を抑制してもらいますという心づもりをしてもらうことを、近隣市町と比べると勇気が必要だと思いますが、市を生かしていくためにはこのような旗振りが必要だと思います。

(A委員) 例えば1ヵ月間感染者が確認されなければ10人まで、2ヵ月間確認されなければ人数制限をなくすというような旗を振ってもらいたいです。

(D委員) 現状、1ヵ月間確認されていないので、10人までOKですよということにすれば、忘年会の形になると思います。1度楽しい思いをすれば、また外に出てみようという気持ちになると思います。

(企画部長) 市として、街に出て、宴会等をやってくださいと言えれば良いのですが、そこまでは出来ないと思います。しかし、アフターファイブクーポンを見ていただければわかると思いますが、感染症対策をしながら、このクーポンを使って夜の街に出ていくきっかけになるのではないかと考えています。

市として何ができるのかということですが、第6波が懸念される中で、段々、外に人が増えているのは事実だと思います。感染症対策をしながら経済を動かす方にシフトしていく必要があると思います。市長も職員に対して、感染者が落ち着いているので感染症対策をしっかりと講じながら、市内経済活性化のためにも街に出てほしいと伝えております。カンフル剤の話ですが、現在の状況であればカンフル剤は必要であると考えますし、もともとの体を強くすることも必要であると思います。GoToトラベルが来年の2月から始まるという報道がありまして、それを待って旅行しようという方が、ものすごい多いです。このこともあって、旅館等の予約が入りきらないのが事実です。GoToトラベルもカンフル剤だと思いますが、この期間に伊東に来てくれた方に伊東の良さを知ってもらって、どれだけリピーターになってもらうかということをやっていくことが重要であると思います。

(D委員) 私の夫はクリーニング業です。GoToトラベルは、私の夫にとってはGoTo Hellだと言っています。突然、人も集まらない状況で仕事が増えて、言うようにして仕事に行きます。

(A委員) ファミリーマートに知り合いがいます。GoToイートはかなり売れているとのことでした。昨日時点でのアフターファイブクーポンの売り上げは、全体の40%です。総数として、市民向が1万冊、観光客向けが2千冊です。まだ6千冊残っております。これから先の忘年会シーズンで集中して購入があるかもしれません。

(会長) それでは他に何かありますか

(D委員) 市長の確約書についてです。行政手続きを業者から受け付けたものに対して適正な行政手続きを踏んでいなければ行政訴訟まで発展する可能性があります。内部向けに市長が独断であるような行為をした場合に、対市民が本当は訴えるというぐらいの話であると思います。今回のことに関して、佃前市長の問題のときに立ち上げたように特別委員会を市の内部でも立ち上げない、議会もやらない、市長が委託した外部の方々に見てもらっただけです。私はとても怖いことが起きているのに、なんでここまでスルーするのかと感じていまして、時間があれば、委員の皆さんにどのように思っているのか聞いてみたいですし、私だけおかしいと感じていて、他の方々は、おかしいと感じていないのかなと、この場が行政改革懇談会で、決まったときにしか提言書を出さないとは思いますが、この問題に対して検討するようなことについて、会長として何か考えはありますか。

(会長) 何か検討するという事は考えていません。なぜかと申しますと、企業として捉えた場合、もちろん肯定するものではありませんが、いかにリスクを減らすかということを考えますので、一理あるのかなというのが私の感覚です。あくまでもトップとして何をリスク管理していくのかというのはトップの立場の仕事だと思えます。正しいか正しくないかは別にしまして、市長としてそのときのトップとしての判断であると思えます。

(D委員) わかりました。良いのか悪いのかの判断は、全体感の中から生まれてくるものだと思います。この問題に対して皆さんがどのように思っているのか確認をしたかったので、会長にお伺いしました。

(会長) 他に何かございますか。それでは事務局からお願いします。

(4) スケジュールについて

事務局から今後のスケジュールについて説明

以 上